

まず命を守る備え

集合住宅・マンションの防災対策



企画意図

近年、マンションなどの集合住宅は、増加の一途をたどり、分譲マンションだけでも全国に約600万戸、1,500万人が暮らしていると推計されています。コンクリート造のマンションは、地震に強いと思われがちですが、耐震性に問題がある旧耐震基準で建てられたマンションが100万戸にのぼると言われ、耐震対策が求められています。

耐震性に問題がなくても、高層マンションでは周期が長く、長時間揺れる「長周期地震動」への対策も必要です。また、飲料水や食糧、防災用品の備蓄、安否確認や要援護者の支援など、地域とも連携して取り組むことも大切です。

この作品は、規模の違う2つのマンションの大地震に備える取り組みを紹介しながら、マンション・集合住宅の自主防災活動をあり方を考えます。

集合住宅・
マンション向け

まず 命を守る備え 集合住宅・マンションの防災対策

作品の概要

1 マンションの地震による揺れ、そして耐震性

今、高層マンションで注目されているのが「長周期地震動」だ。長周期地震動が一般の揺れと違う特徴を、実験映像で捉えていく。そして長周期地震動を体験した人の声も聞き出していく。長周期地震動に限らず、マンション内の家具の転倒や移動を防ぐためには、一にも二にも固定することだ。

2 耐震診断、耐震補強が必要なマンション

今、マンションの中には、昭和56年以前の旧耐震基準で建てられ、耐震強度が不足しているものが100万戸に上ると言われている。それについては耐震診断が必要だ。耐震診断は、まず設計図と目視による点検から始まる。その工程を捉えていく。

3 小規模マンションの防災対策は…

あるマンション(62世帯が入居)では、住民が運営する管理会社を中心とした、様々な防災対策と取り組んでいる。建物の強度を改善するため、屋上の受水槽を地上へ移動。そして、エレベーターの閉じ込め防止、停電になってもバッテリーで必ずドアが開くようにした。その他、防災備蓄品の補充、備蓄倉庫の整備、また、各フロアに防災組織の担い手となる隣組長を選考し、フロアごとの住民の交流を図る計画も取り入れている。

4 大規模な集合住宅での取り組み

東京都にある7棟・1,324世帯・約3,400人が入

居している大型集合マンション、なぎさニュータウン。このマンションでは、阪神淡路大震災を契機に、管理組合と自治会が共同で、防災組織・なぎさ防災会を立ち上げた。「楽しくやらなければ防災ではない」をモットーに、色々なアイデアを早朝訓練、夜間訓練、帰宅困難者体験ウォークなどに取り入れている。

5 新たな課題に向けて

今、なぎさ防災会が取り組んでいるのが、会員の災害時の役割分担と行動マニュアル作り。また、防災用名簿である要援護者の名簿作りも、新たに取り組み始めた一つである。

前出の小規模マンションでは、近隣同志のコミュニケーションが力を発揮すると考え、近隣マンション同志の情報交換をしたり、自治会とも一緒になって、炊き出し訓練など、様々な交流の場を広げている。

6 なぎさニュータウンの総合防災訓練

なぎさ防災会による、年に一度の防災訓練が始まった。今年から、自宅待機者の「無事です」シートを利用。フロアごとに班長が安否確認する訓練も取り入れられた。そして、日頃からの訓練の成果も問われた。消火器の使い方、応急救護の体験、レスキューキッチンを使った炊き出し訓練…等々。

自分たちのまちは自分たちで守る。そのためには、住民同士が普段から知り合うこと、そして協力する人の輪を広げていくことが大切であると訴える。

企画・制作統括
脚本・監督
撮影

高木裕己
山田和広
金山芳和
中井正義
高橋哲也

整音
ナレーター
コーディネーター

東館康夫
保谷果菜子
齋藤晃顕

監修 明治大学大学院 危機管理研究センター
特任教授 中林一樹

制作・著作 株式会社 映学社

■ライブラリー価格 本体 ¥65,000+税

■VHS・DVD [カラー・22分]

■2013年・映学社作品



〒160-0022 東京都新宿区新宿5丁目7番8号らんざん5ビル
TEL: 03-3359-9729 (代表) FAX: 03-3359-4024
http://www.eigakusya.co.jp/

●お問い合わせ、お買い上げは……